すがはら小学校

――日本の小学校の１日――

日本語や文化を教えるときには常に、児童が経験したことと関係のあるものを取り上げて比較することから始めるのがいい。多くの児童は、日本の学校生活が自分たちのものと違っていることを知って、驚き、ショックすら受ける。今回の授業では、日本文化を教えるためにプロセスアプローチを採用し、他のカリキュラムで使われている問題解決の手法を使用している。この授業での教師の役割は、できるだけ干渉せずに児童を指導することだ。授業のなかで出てきた問題が後のグループ活動や個人研究の基礎になる。このアプローチは、日本語や日本文化に対する児童の興味を刺激し、継続させるのに効果的な方法である。

チャーリー・オーサリバン
Charlie O'Sullivan
メアリー・ヘルプ・オブ・クリスチャンズ小学校
（オーストラリア、ニューサウスウェールズ州）

目的

言語面の目的

● 授業の開始時と終了時の教室表現を覚え、使えるようになる。

学習する機能	学習する表現	学習する語彙
✣ 教師にあいさつする ✣ 教室での教師の指示表現を理解する	✣ みなさん、おはようございます ✣ せんせい、おはようございます ✣ きりつ、れい、ちゃくせき ✣ みなさん、さようなら ✣ せんせい、さようなら	✣ きりつ、れい、ちゃくせき ✣ みなさん、せんせい

文化面の目的

● すがはら小学校と自分の学校の学校生活について類似点や相違点を検証する。
● 類似点、相違点を詳しく分析する。
● 異なる行動を説明するために仮説を組み立てる。
● 今後の発展学習のために質問をする。

© 1999 THE JAPAN FORUM

レッスンプラン

用意するもの

資料*

授業の進め方

準備
授業開始前に資料を配布する。

1. 資料を読む（10分）
児童といっしょに資料を読み、挨拶のロールプレイをさせる。

2. 資料を使って、グループ学習を行う（15分）
児童を3、4人ずつグループに分け、グループごとに代表を1人、発表者を1人、マネージャー（教師から学習課題について説明を受ける）を1人決める。テキストの特定の一節（授業、制服などについて）をもう一度読ませ、質問に答えさせる。

3. 答えを発表させる（15分）
各グループの発表者が答えをクラス全体に発表する。黒板に答えの要点を書く。答えはまずすべて受け入れ、児童が自分の発言を明確にするよう助言する。資料について留意すべき点は次の通りである。

1. 児童から「日本の学校はとても大きい」というように一般化する感想が出てきたら、その内容を質問形式に変えるように指示する。例えば、「日本の学校の児童数はどこも400人以上ですか」。こうした質問は、発展学習の課題になる。

2. 児童に感想を列挙させ、資料から得た情報を好き嫌いの感情だけで判断しないように指導する。どうしてそのような感想を抱いたのかを考えさせる。

3. すべての答えを受け入れるが、児童に自分の意見の正当性を示すように指示する。

4. 与えられた情報について、理解しにくいことや間違いやすいことを児童に考えさせる（例えば、「日本の子どもはみんな12時10分に昼食をとる」というように誤って一般化する危険性など）。

5. 他の学校の事情を知ることで、自分たちの学校をどのように改善したらよいか、真剣に考えるようになる。

6. どうしてそうなのか。学校がどうして特定のやり方で運営されているのか、児童に説明させる。児童に説明をまとめさせ、調べていけば検証できる仮説を立てさせる。例えば、「日本の先生は学校で児童がお菓子を食べることを禁止している」。

7. ここで、児童は自分たちの考えをまとめ、その後の展開を決めることができる。

このあとの授業では、グループ学習を行ったり、教師が個別に児童の相談にのる。教師の役割は、マネージャーと同じで、情報や資料をどう利用するか教えることである。

4. 評価方法
- 読解
- ロールプレイ
- 討論
- 討論結果の記録

 ©1999 THE JAPAN FORUM

文化理解と外国語学習について

包括的な能力を伸ばす教育が求められている

教師は常に、社会のなかで起きている変化に対応するように強いられている。オーストラリアは昨今、文化的・経済的に大きな変化が起こって、急速に多文化社会になりつつあり、英連邦というよりはアジアのなかの一国として自分たちの国を見直すようになってきた。現在、オーストラリア経済は商品輸出に大幅に依存しているが、最近の傾向からするとオーストラリア経済の将来はアジア諸国を市場に据えた、サービス業や観光、教育の分野に重点がおかれるようになっていくだろう。経済のグローバル化による変化と圧力から、オーストラリアの多くの企業団体は職場を組織し直し、縦割りの決定パターンをチームで取り組む形に切り替えている。新しいポイントは、より短期間のビジネスサイクルや、より一律的な経営組織を強調していることである。1人の人間が生涯同じ仕事を全うするというケースはもはや考えられなくなりつつある。技術の発展とともに、教師は将来の職場で要求される技能が何であるかを把握することが大変難しくなってきている。これからは、特定の技能よりも包括的な知識を持ち、他の人間と協力して創造的に問題を解決していける人間が求められていくと思われる。

オーストラリアの教育システムは多くの点で、こうした変化に対応している。その一番よい例がアジアの言語を学習している児童・生徒が増えていることだ。この過程で小学校が重要な役割を果たしている。日本語の場合は、コミュニケーションの手段としてだけでなく、日本の言語とその文化に対して、前向きな態度を持ち、一生涯興味をもち続けていけるような教育が特に小学校で求められている。

いくつかの小学校では産業界の要請に応えて、より高度な思考能力を育成する目的で新しい手法を取り入れている。こうした取り組みは児童の創造的な思考の発展を促している。また、情報技術の導入でいろいろな教授法を取り込むようになってきている。児童にとっては情報量の増大で、知識の暗記よりも情報運営の技術の習得がより重要になってきている。こうしたことから、教師の役割も、物事を教えるというより児童が容易に物事に取り組めるように手助けをする、というように変わってきている。このような変化は日本語や文化教育の面でも現れてくるだろう。児童は自分の学習に責任を持ち、他の児童と協力してやっていくように求められている。その課題は意義があり、重要かつ自由なものだ。

オーストラリアの子どもは自然に、日本の生活様式や考え方、自分と同じ世代の日本の子どもに興味をもつようになる。重要なことは、学習者が個々に解答を見つけ出そうと努力するようになることだ。その過程で、児童は大事な包括的な能力を伸ばし、同時に日本語や日本文化への個々の興味を膨らませていくようになる。

講　評

このレッスンプランは、児童を主役にしたもので、よく組み立てられている。児童に情報を与え、児童の考える力を伸ばすだろう。共同作業をさせるのも効果的だろう。さらに指導のポイントもよく考えられていて、他の教師の参考になるだろう。

ただ、最初の10分だけではなくて、授業を通して語彙を教えることもやってみてほしい。20時間日本語の授業を行っているのに、あいさつだけでは不十分だろう。討論の時に次の言葉を使うようにしてみてはどうだろうか。すがはらしょうがっこう、あるいて、バスで、せいふく、きゅうしょく、やすみじかん、やきゅう、ゴムとび、ドッジボール、サッカーなど。

すがはら小学校

すがはら小学校は日本の奈良県にある。児童数は800人。

登 校

遠距離徒歩通学の児童は、近所の児童といっしょに集団登校する。グループごとに年長者が責任者となってグループを無事に学校まで連れて行く。その他の児童は1人で歩いていくか、車で送ってもらうか、バスを利用している。

制 服

児童は青色と白色の制服に、明るい黄色の帽子をかぶっている。また、学校名と名前を書いたバッジを胸につけている。学校指定のカバンには明るい黄色のカバーが掛けてある。

教室での習慣

朝はまず、教師が「立ってください」と言って児童を立たせ、「皆さん、おはようございます」と言ってお辞儀をする。児童も「先生、おはようございます」と言ってお辞儀をする。各授業の始めと終わりには、児童の1人が「きりつ、れい、ちゃくせき」と言って、クラスメート全員に号令をかける。

校庭と遊び

校庭は、砂と土を混ぜたもので造成されている。野球やスキップ、縄跳び、ドッジボール、サッカーなどが人気があり、児童は2時間目と3時間目の間の20分の休み時間には校庭に出て遊ぶ。中には教室に残って絵を描いたり、読書したりする児童もいる。

授 業

火曜日の時間割

8:30	クラスでその日勉強する科目を確認する
8:50 — 9:30	道徳
9:40 — 10:20	国語
10:20 — 10:40	休み(20分)
10:40 — 11:20	算数
11:30 — 12:10	体育
12:10 — 12:50	給食
12:50 — 1:10	そうじ
1:10 — 1:50	理科
2:00 — 2:40	音楽
2:40 — 2:50	帰りの会

児童は各科目ごとに教科書を使う。教科書は家に持って帰り、毎晩宿題をやる。児童の多くは学校が終わってから国語や算数、音楽やスポーツなどの塾に通っている。

食 事

児童は休み時間にお菓子を食べることも、学校に食べ物を持ってくることも禁じられている。学校では食べ物を買うことができない。飲み物やお菓子は学校で許されていない。お昼は席について給食を食べる。給食のメニューは毎日替わり、ご飯やそば、とり肉や牛肉、野菜、魚などの組み合わせである。全員、同じものを食べる。クラスごとに当番のグループが給食を配ったりテーブルの片付けをすることになっている。

テキストの一節を選んで、次の質問に答えなさい。

1. どの話がおもしろかったか。
2. 読んだ文章の内容についてどう思うか。
3. いいと思うのはどんなことか。
4. どんなことに関心をもったか。
5. 何か新しい発見はあったか。
6. その内容を説明できるか。
7. どんなことを学んだか。改めて質問したいことがあるか。

 ©1999 THE JAPAN FORUM